東大人文・淀江プロジェクト
第５回 公開シンポジウム

考古・歴史資産をどう活かすか
―米子で考える

日　時　令和８年
11月21日㊏
13:00 ～ 16:30（開場 12:30 ～）

会　場　米子市淀江文化センター 大ホール
米子市淀江町西原708－4

参加費 無 料
※要事前申込

定　員 500 名


むきばんだ史跡公園

趣　旨

淀江を含めた米子市は、在野の研究者や市民の活動に支えられながら、遺跡調査や保存運動を積み重ねてきた「考古学の町」です。
本シンポジウムでは、妻木晩田遺跡の保存と活用の取り組みのみならず、早くも明治期から市民と共に実践されてきた米子における考古学研究と遺跡保存の歴史を振り返ります。そのうえで、考古・歴史資産を地域の文化資源としてどのように今日のまちづくりに活かせるのか、米子の未来に向けてどう活かしていけるのかを考えます。
２０２６年度は受託研究の最終年度にあたるため、共同研究のまとめとして、淀江や米子を中心とした地域の文化財・歴史遺産の保護と活用を展望した総括シンポジウムとします。

内　容

司会進行　佐藤 宏之 氏
（東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授）

- 主催者挨拶　村本 由紀子 氏（東京大学大学院人文社会系研究科長・文学部長）
- ご 挨 拶　伊木 隆司 氏（米子市長）
- 趣旨説明・プロジェクト活動報告　佐藤 宏之 氏
- 基調講演Ⅰ「米子市の考古学研究と文化財保護の歴史」
  中原 斉 氏（米子市立山陰歴史館　館長）
- 基調講演Ⅱ「妻木晩田遺跡の保存から活用の市民活動」
  佐古 和枝 氏（関西外国語大学　教授）
- 基調講演Ⅲ「遺跡はまちづくりの文化資源である」
  松田 陽 氏（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授、プロジェクト・リーダー）
- ラウンドテーブル
  パネリスト：足立 英市 氏（一般社団法人 淀江ロマン遺跡回廊　事務局長）
  荒木 菜見子 氏（米子工業高等専門学校総合工学科建築デザイン部門　講師）
  中原 斉 氏
  コーディネーター：松田 陽 氏、佐古 和枝 氏

申込み方法

電話・FAX・メール等で
① 代表者お名前
② 代表者ご連絡先電話番号
③ 参加希望人数（代表者含む）　を添えて
米子市淀江文化センターにお申込みください。

- 電話　０８５９－３９－４０５０
- FAX　０８５９－３９－４０５１
- E メール　saname@yonagobunka.net
- メール申込フォーム QR コード

＜開館時間＞9:00 ～ 22:00
＜休館日＞毎週水曜日
(9/23 ㊌を除く)
と 9/24 ㊍

東大人文・淀江プロジェクト とは

１９０１年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏（東京帝国大学教授）は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。
また、長者ヶ平古墳から発見された金銅製冠などの副葬品は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、令和４年から当面５年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェ クトです。毎年シンポジウムや講演会を開催し、たくさんの方にご参加いただいています。

主　催　東大人文・淀江プロジェクト
［東大問い合わせ先］　プロジェクト室（佐藤）　☎０３－５８４１－４０４６　hsato@l.u-tokyo.ac.jp
事務担当（瀧口）　☎０３－５８４１－４０２８

共　催　米子市、一般財団法人 米子市文化財団［米子市淀江文化センター］

後　援　鳥取県、NPO 法人 むきばんだ応援団、一般社団法人 淀江ロマン遺跡回廊

東大人文・淀江プロジェクト
第５回 公開シンポジウム

考古・歴史資産をどう活かすか
―米子で考える

講師 プロフィール



中原 斉 氏　米子市立山陰歴史館　館長

昭和 34（1959）年、米子市出身。
國學院大學文学部史学科卒業（日本考古学専攻）。
鳥取県立むきばんだ遺跡公園所長を経て、鳥取県地域づくり推進部文化財局長で退職後、米子市文化振興課専門官を経て現職。
専門は、日本考古学、歴史文化遺産の活用。
主な著書等は『よみがえる金堂壁画　上淀廃寺』新泉社（平成 29 年）、『白鳳・天平の華－因幡・伯耆の古代寺院－』鳥取県史ブックレット、「異能の先駆的考古学者・倉光清六」『古代文化』第 71 巻第 1 号　古代学協会（令和元年）ほか。



佐古 和枝 氏　関西外国語大学　教授

鳥取県米子市出身。
1992 年より関西外国語大学で考古学を教える。
NPO法人「むきばんだ応援団」副団長、米子市妻木晩田遺跡の普及活用に取り組む。「淀江のたから探検倶楽部」にも参加。
現在、文化庁文化審議会第一及び第三専門調査会専門委員、長崎県文化財保護審議会委員、山口県文化財保護審議会委員、大阪府羽曳野市文化財審議委員、大阪府和泉市文化財審議委員など。主な著書は、「吉野ヶ里～繁栄した弥生都市」、「ようこそ考古学の世界へ」、「海と山の王国～妻木晩田遺跡が問いかけるもの」ほか多数。



松田 陽 氏　東京大学大学院人文社会系研究科・准教授、プロジェクト・リーダー

1975 年兵庫県生まれ。
ユネスコ本部文化遺産部コンサルタント、英国イーストアングリア大学世界美術・博物館学科准教授を経て、2015 年より現職。
文化庁文化審議会正委員。専門は文化遺産研究、パブリックアーケオロジー。
著書に『入門パブリック・アーケオロジー』(共著、同成社、2012 年)、『実験パブリックアーケオロジー』(同成社、2014 年)、Reconsidering Cultural Heritage in East Asia (編共著、Ubiquity Press、2016 年) などがある。

パネリスト プロフィール



足立 英市 氏　一般社団法人 淀江ロマン遺跡回廊　事務局長

地元淀江町内で生まれ、ふるさとよどえを愛し、地域の魅力と素晴らしさを発信。
淀江のたから探検倶楽部で活動。
淀江町青少年ゆめ基金活用委員会委員長。
前米子日吉津商工会会長。



荒木 菜見子 氏　米子工業高等専門学校総合工学科建築デザイン部門　講師

1993 年岐阜市生まれ。
2021 年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程修了。
現在、米子工業高等専門学校総合工学科建築デザイン部門講師。博士（学術）。専門は建築史・都市史。
2026 年から米子市文化財保存活用地域計画協議会委員。

司会進行 プロフィール



佐藤 宏之 氏　東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授

1956 年仙台生まれ。
東京大学名誉教授。同大大学院人文社会系研究科特任研究員。専門は先史考古学と民族考古学。
特に日本および東アジア先史時代の技術・行動論及び現生狩猟採集民の居住形態研究が専門。また大学や行政の地域・社会連携活動に長年携わってきた。
アジア旧石器協会前会長、日本旧石器学会前会長、日本考古学協会元副会長。日本学術会議連携会員。山形県高畠町日向洞窟遺跡調査検討委員会の委員長を務めている。